

2020年度 第1回 JSSR プロジェクト委員会

日時:2020年6月9日(火)19時から20時

Web開催

出席者(敬称略):担当理事:山田宏、委員長:海渡貴司

委員:今釜史郎、今城靖明、井上玄、折田純久、酒井紀典、高畑雅彦、星野雅俊、宮腰尚久、八木満、吉井俊貴、森幹士、若尾典充、渡邊慶、宮崎正志、金村徳相、岡敬之、室谷健太
アドバイザー:松山幸弘、波呂浩孝、渡辺雅彦

オブザーバー:大和雄

議事内容

- 1) 山田担当理事ご挨拶
- 2) 松山理事長ご挨拶
- 3) 委員・アドバイザー先生自己紹介
- 4) 事前アンケート結果報告 (海渡委員)
- 5) 進行中プロジェクト

『頸椎由来の頸肩腕症状に対する薬物治療の臨床経済研究』(若尾委員)

A) 研究計画概要・研究のながれ

B) 参画施設 IRB 審査・症例登録状況

を説明いただいた。IRB 審査に各施設で時間を要し、また Covid-19 等の問題から症例登録は現在のところ未であるが今後研究促進を進める。

C) 症例登録促進対策

症例登録促進のため、各地区での研究統括者の推薦があった(海渡委員)。北海道東北地区:高畑委員、北陸地区:渡邊委員、関東地区:吉井委員、中部地区:若尾委員、関西地区:森委員、中国四国地区:今城委員、九州地区:宮崎委員を推薦し、各委員先生より承認いただいた。

また、若尾委員より、月に一度研究の地区別進捗情報(IRB 経過、症例登録)を委員に共有いただくこととなった。

- 6) 新規プロジェクト

A) 腰曲がりに対する保存治療・外科治療の費用対効果研究

山田担当理事より着想経緯をご説明いただき、海渡委員から概要の説明があった。保存治療と外科治療における患者背景の違いがある可能性あり、保存治療と外科治療の費用対効果を別研究としてまずデータを収集するのがよいのではないかとの提案があった(松山理事長)。保存治療の事務局は山田担当理事、外科治療の事務局は大和先生に担当いただくこととなった。しかし両者のデータを統合する可能性が否定されたものではないとした。

B) 不安定性を認めない Meyerding1 度腰椎変性すべり症に対する椎体間固定術と除圧術の費用対効果の検討 5 年追跡

八木委員より研究の背景・方法・予想される結果について説明いただいた。波呂理事より不安定性の定義が課題とのご意見あり、八木委員より各施設の適応等を勘案いただき inclusion criteria, exclusion criteria を提案いただくこととなった。海渡委員より QALY 評価時期は各年がよいのではという提案があった。

C) 硬膜外ブロックへのステロイド併用の効果（費用対効果？）

JOA ガイドライン委員会として文献的考察を実施された井上委員から現在のエビデンスについてプレゼンがあった。ブロックアプローチ、使用薬剤、フォロー期間など課題はあるが、整形外科医が病態を評価して実施・薬剤統一・本邦の費用対効果研究という観点からは新しいエビデンスが提示できるとの内容であった。

アプローチや薬剤は一定程度統一するほうがよいとのご意見があった（波呂理事）。

7) その他

若尾委員より、現在進行中のプロジェクト研究での経費（若尾先生および室谷先生）への研究費支援について質問があった。松山理事長より資料（予想経費額等）を収集の上、理事会で審議いただくこととなった。

約 1 ヶ月後を目処に新規プロジェクト研究担当（腰曲がり：山田担当理事、大和先生、1 度すべり：八木委員、硬膜外ブロック：井上委員）より、研究計画案を作成いただき、委員でメール審議を行う予定とした。

次回委員会予定 2020 年 9 月頃

書記 海渡貴司